

令和5年度 いじめの把握のためのアンケート調査の結果について

1 アンケート結果

(1) 回答数（各学部訪問教育学級を含む）

学 部	6月調査	10月調査
小学部	17人	26人
中学部	23人	19人
高等部	29人	26人

(2) 今年4月から嫌な思いをしたことがあるか

6月				10月			
ある	0人	なし	69人	ある	0人	なし	71人

(3) 今も嫌な思いをしているか

6月				10月			
ある	0人	なし	0人	ある	0人	なし	0人

(4) 嫌な思いをしたら誰に相談するか（あてはまる人を全て選ぶ）

6月		10月	
学校の先生	36人	学校の先生	41人
友人	6人	友人	10人
父や母	41人	父や母	53人
兄弟姉妹	3人	兄弟姉妹	7人
だれにも相談しない	3人	だれにも相談しない	2人
その他（施設・デイサービスセンター職員）	2人	その他（施設・デイサービスセンター職員）	2人

(5) 友達が嫌な思いをしているのを見たり聞いたりしたことがあるか

6月					
ある	0人	なし	60人	未記入	7人
10月					
ある	1人	なし	64人	未記入	6人

(6) 「子供相談支援センター電話相談紹介カード」の存在について

6月					
知っている	14人	知らない	46人	未記入	7人
10月					
知っている	16人	知らない	49人	未記入	2人

(7) いじめはどんなことがあっても許されないことだと思うか

6月							
そう思う	45人	そう思わない	0人	よくわからない	15人	未記入	7人
10月							
そう思う	54人	そう思わない	1人	よくわからない	10人	未記入	6人

2 本校における今後の取組について

- (1) 児童生徒が「いじめは絶対にあってはならないこと」を理解できるよう、「特別の教科 道徳」をはじめ、学校教育全体の中で「自分の大切さとともに他の人の大切さ」を認められるような場面を意図的に設定しながら継続した指導を行う。
- (2) 「嫌な思いをしたら誰に相談するか」という質問に対し、「誰にも相談しない」と回答した生徒がいたことから、発達支援的生徒指導の観点で、「困った、助けて」など適切な「援助希求」ができる力を身に付けられるよう、自立活動等において継続した指導を行うとともに、児童生徒との信頼関係形成を構築し、児童生徒が話しやすい雰囲気づくりに努める。
- (3) 児童生徒の表情や様子、学級の雰囲気などに気を配り、違和感があった際には、迅速にかつ組織的に対応するなど、積極的に危機のサインに気付くことができるようにする。